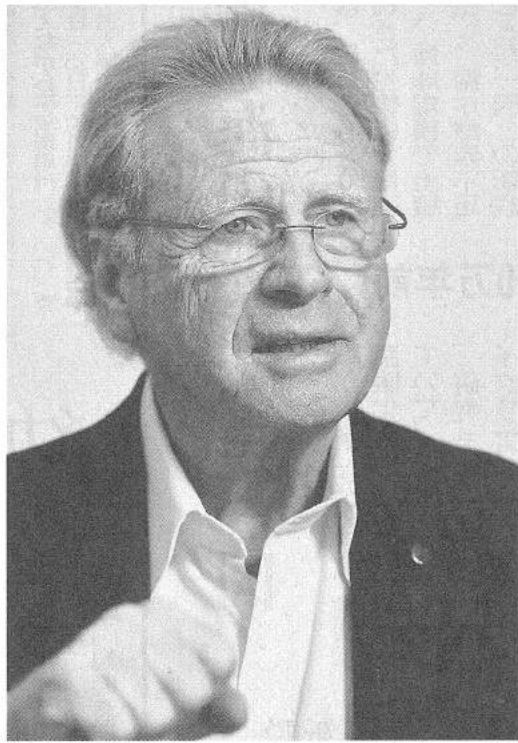


「ファウストの劫罰」指揮者対決



ユベール・スダーン

* 東京交響楽団



高関健

* 東京シティ・フィル

楽譜通りの演奏が一番

自由人ベルリオーズの独特な魅力が凝縮された最高傑作だ。爆発的な「地獄落ち」を経て静ひつなエンディングまで、楽曲の展開が目まぐるしく、テレビドラマ（朗唱）のタイミンクや全楽器の休止の時間などを崩さないことが肝要だ。自筆譜を読むと演奏の空いた時間も緊張感として計算されている。「」は早くして

巨大な管弦楽と合唱編成ゆえに日本での上演機会が極めて少ない、ベルリオーズの劇的物語「ファウストの劫罰」が、奇遇にもこの9月、東京シティ・フィル（高関健指揮）と東京交響楽団（ユベール・スダーン指揮）によって相次いでコンサート形式により演奏される。壮絶な「地獄落ち」の名場面を極点とした、愉悦と幻想に富むこの傑作をどう料理するのか、両指揮者に聞いた。（岩城 択）

歌手の言葉を組み込む

美しい映画を見ているかのような作品だ。ベルリオーズは、それぞれの役柄やシーンの特徴付ける固定案想を用いて、シンプルながらカラフルな楽曲に仕上げ

た。全ての人が楽しめる内容だと思ふ。音使いや楽器の扱いが、非常に個性的。音色を形作るのには、バイオリンの高音ではなく、ビオラやチェロ、コントラバスなど中低音だ。音域と音色が非常に幅広いのが特徴となっている。

私はこの曲をオペラ上演を含めて30回以上、指揮した経験がある。しかし、今回は、初めて挑む心構えで準備した。以前は派手に見せることで頭がいっぱいだったが、私も成熟し、今は曲の中の無音状態も怖くない。過去と全く違う演奏になるだろう。

クライマックス「地獄落ち」の驚がくをはじめ、情

マのような面白さがあり、現代人にも分かりやすい。有名な「ラコッツィ（ハンガリー）行進曲」を使いたいがために、いきなり冒頭から改変し、舞台を原作にないハンガリーの平原とするなど、奇抜さも楽しい。作曲しながらうれしくてたまらなかつた感情がにじみ出ているところばかりだ。こうした強力な時空的アイデアを明確に表現するためには、楽譜通りに演奏するのが一番だ。流麗なレチャタティーボ

はダメ」など、これほど綿密な指定がある楽譜はマラーの他に類を見ない。演奏では、混声合唱・児童合唱の役割が非常に重要となる。学生や兵士、天使など様々な役柄の歌い分けが必要で、早口のフランス語も求められる。高度な表現力がある4人のソリストも、国内屈指のベストの布陣となった。

私自身、学生時代からの夢だったこの曲を初めて指揮する。巨匠らが幾多の名演を残しているが、中でも

「ファウストの劫罰」の配役

東京交響楽団	役名	東京シティ・フィル
マイケル・スパイアーズ	ファウスト	西村悟
ミハイル・ペトレンコ	メフィストフェレス	福島明也
ソフィー・コッシュ	マルグリット/マルグリット	林美智子
北川辰彦	ブランデル	北川辰彦

* 総出演者は290人 ゲーテの戯曲を基に「コンサート用オペラ」として書かれた。巨大編成が要求され、今回の東京交響楽団の場合、総出演者は約290人に上る。粗筋は、人生をはかなみ自殺を決意したファウスト博士が、悪魔メフィストフェレスから未知なる欲望をかなえる誘惑を受け、死の刑を告げられたマルグリットと恋に落ちる。過って母親を殺し、自らの命をささげる誓約を悪魔と交わしたファウストは、救済されるゲーテ原作の筋書きとは異なり、地獄に落ちて行き、マルグリットは天国に昇る。